

第24回デメンシアカンファレンス 報告要旨

『初期に注意欠如・多動性障害が疑われた若年性認知症の一例』

発表者:松本 日和(福井大学医学部附属病院 神経科精神科)

司 会:東間 正人(福井大学医学部附属病院 神経科精神科)

【要 旨】

症例は51歳女性。主訴は忘れ物とミスが増えたこと。既往歴に横行結腸癌があり、X-2年9月に切除術を行ったが、術後抗がん剤治療も終わり再発はしていない。

X-2年3月頃より易怒性、携帯電話の紛失、交通ルール違反、交通事故等があった。X-2年9月の結腸癌術後に心気症が疑われてAクリニックを紹介受診した。SSRIが処方されて易怒性、心気的な訴えは軽減し、復職したが仕事でミスや記憶違いが多く、注意欠如・多動性障害(以下AD/HD)が疑われてストラテラを処方された。改善を認めないため、X-1年10月に精査目的にB病院を紹介初診、その際にB病院では脳波異常を認めて、X-1年12月精査目的に当科紹介初診となった。神経心理学的検査では、注意障害および視空間認知障害が目立ち、記銘力障害は目立たなかった。血液検査および髄液検査に異常所見を認めず、頭部MRIにて頭頂葉～側頭葉の著明な萎縮と血流低下、PiB-PETで皮質にびまん性のアミロイドβの沈着を認めた。画像および臨床所見よりPosterior cortical atrophyと診断した。

【質問・意見】

質問:若年性で海馬の萎縮が目立たないケースでは髄液でタウが上がっている可能性があるが、はかっているか?

回答:髄液検査は行っているが、タウは未測定です。

コメント:PCAというには視覚症状が目立たず、若年性のアルツハイマーのバリエーションではないか。